

第9小分科会 ママ目線で考える「地域のつながり」

～子育てサークルやママたちができること～

ファシリテート・司会：子育て情報サイト「ママとね」 野田千絵・中島あきこ

参加者：5名+司会2名

進行①

プレゼン資料から、「ママとね」概要と沿革の説明

『ママとね』とは

「ママとね」は、出産後に三島市に転入してきたママ二人で立ち上げた、静岡県東部の子育て情報サイト。
開設は今年の2月14日。

転入してきたママでも欲しい情報を見つける事ができ、早く地域に溶け込んで安心できるよう、ママ目線で情報発信。

同時に、地域のママ50人を巻き込み、親子むけイベント開催や県東部全域を対象としたプロジェクトの遂行なども行っている。



mamatone.net

2月の開設から現在までの動き

11月 サイト開設の準備開始。

2月 ママとね.net サイト開設

4月 「ママとねフェス」開催
大人子ども合わせ
1200人の来場

5月 詩集「トツトウカ」プロジェクト本格始動
実行委員は
地域のママ50名



『ママとね』前のわたしたち

《中島の場合》

第1子が4か月の時に、夫の転勤に伴い、三島に転入。

- ・仕事人間だったことも災いして、90%育児生活にどうしてもなじめない自分
- ・子育て情報収集は、子育て雑誌とWeb。県東部はオンライン情報は極端に少なく、地域の情報は得られず、かといって、ママ友作りも面倒くさい。
- ・母は他界、父は遠方。夫は、平日は0時近い帰宅で孤独育児。
- ・施設は別に困らないが、何か聞きたいときは、都内の友人にメールで問い合わせる状況。

↓

転機は、母親が自主運営する子育てサークルへの参加
(第1子が1歳4か月：1年間の孤独育児に終止符)

『ママとね』前のわたしたち

《野田の場合》

第1子が3か月の時に、早産り出産の流れでそのまま三島に転入。

- ・こども嫌い&仕事人間が、初めての育児。
⇒地元なのに全然友達と会わず……赤ちゃんと二人で引きこもりがち。
- ・子育て情報収集は、もっぱらWeb。広量なんて読んでこない。新聞は経済新聞だけ。
⇒県東部はオンライン情報は極端に少なく地域の情報は得られず。
- ・夫、平日はほぼ不在で孤独育児。
(親、妹の家に入り浸り過ぎ、迷惑がられる)

↓

転機は、そろそろ引きこもりの脱却！とすべく、
女性のための自己啓蒙セミナーへの参加
⇒地域活動の個人・団体に参加
⇒人と出会う！
(第1子が1歳3か月：地元なのによりやく居場所をみつけた感)

「ママとね」の立ち上げ前の心境：一母親として、どちらかという引きこもりがちな主婦だった私たちが、いかに団体を形成していくことに至ったか、またその方法を紹介。母親同士の横のつながりから、行政、民間企業を巻き込みイベントを開催。1200人もの来場客があった経緯を紹介。その後、地域とつながるためのプロジェクトを説明。

ママとねフェス



2014/4/26
ママとねフェス
県総合健康センター
1202名 来場

mamatone.net

『地域とつながることで私たちが成長したこと』

- ・人が人を呼ぶ。
つながりがつながりをよぶ。
- ・2人で始めた事業だが、10人集まればできることが広がる。20人集まればもっと…。
- ・この地域のニーズにこたえるために多方面からのアプローチが必要。
- ・一歩を踏み出す勇氣。
- ・響かない人には響かない。
聞ける人と会う。賛同者を巻き込む。
- ・わたしたちの活動は地域に変えられている。



進行② 「地域とつながる」ということ、その目的と課題の共有

～参加者自己紹介、背景、参加の目的、ママコミュニティや社会にどのような「つながり」を必要と感じるか。を自由議論。

参加者1：千葉県より参加。里父、子供が発達障害あり。

里親ということが地域に知れることは、子供本人に知られてしまうそれが懸念。

育児に不安がありながら他人に言えないでいる。どう育てていいかわからない。

子ども同士のつながりあいは子どもの社会形成のために必要だと感じる



参加者2：静岡県より参加。二児の里母、子供が発達障害あり

地域に「里親」自体の認知理解が進んでいない。里親だと子育てサークルに入りにくい。また勇気が必要。またどうやって繋がったらいいかわからない。

親権問題が絡み育てる節々で課題がある。法的なものや障害手帳の交付など情報を集められるコミュニティがあればと感じる。

参加者3：静岡県より参加。二児の里母

子育て支援センターへいくことも勇気がいる。出産話になると参加できないつらさ。里親だと告げたとときの反応が様々なを感じる。子ども同士の社会性づくりは課題。どうやってはいいけるか（思春期サロン・乳幼児サロンなど既存のものを増やしては）

参加者4：埼玉県より参加。一児の実母、一児の里母。

つながりたくても、つながれない。皆で気軽につながれる「何か」がほしい。どうやって繋がっていいかわからない。助けて！と言えない。先輩里ママに相談しにくい環境。

参加者5：神奈川県より参加。一児の里母

先輩ママと新米ママのつながりの場が必要。神奈川県では県内児童相談所内に保育士によるアドバイザーを設置されている。年齢別、赤ちゃんから思春期などそれぞれの時間軸に沿った相談機関・子供同士のコミュニティの場が必要。

●まとめ：・里親・里子について認知と理解向上のための機関、場所が必要

→偏見をなくし、共感共存サポートしあえる環境へ

・行政を巻き込んだ公的なサポートの必要性（親権・障害手帳など）

里親実親関係なく、子育てをする仲間同士として、繋がるのが出来たら。

実親はより里親についての理解が必要であり、里親自身も「きっとわかってもらえない」という壁を取り払うことが必要かもしれない。